

常任委員会 視察報告

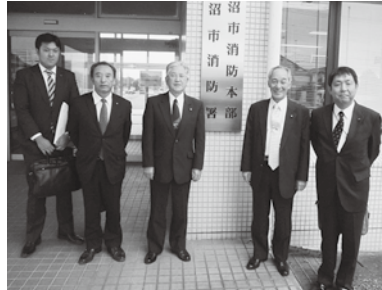
平成二十八年十月から十一月に実施した各常任委員会の調査視察の概要を報告します。

総務文教常任委員会

《栃木県鹿沼市》

消防団充実強化ビジョンについて

鹿沼市では、団員が活動しやすい環境整備と社会的な地位向上を図ることを目指し、消防団充実強化ビジョンを策定しました。具体的な取り組みとして、組織再編計画、安全管理マニュアルの作成、主に応急手当普及活動や広報活動などを担う女性団員の任用、経験者を支援団員として任用する機能別団員制度、報酬等の処遇改善、団員の優遇制度などについて説明を受けました。団員報酬は全般的に当市よりも高めに設定されていました。団員数の充足率は九八・九%と高く、平均年齢も三十七歳と若い団員が多い理由を尋ねたところ、地元や地域団員の呼びかけによるものとの説明でした。団員の確保には苦慮しているとのことでした。



鹿沼市消防本部にて

たが、活動しやすい環境づくり、体制づくりにより積極的に取り組んできた成果であると感じました。

《栃木県日光市》

消防団サポート事業について

日光市では、団員の高齢化が年々進み、地域防災力の低下が懸念されることから対応策を検討し、広報誌の発行、自治会を通じた消防団幹部による加入促進、団員確保のための検討委員会立ち上げに取り組みことにしました。検討委員会では、団員からの要望アンケートの分析結果を踏まえ、長崎県平戸市を参考に団員

のサポート事業を実施することになりました。この事業は、市内の飲食店などが協力し、各店舗が独自に割引など優遇措置を設け、団員はカードを提示することで、サービスを受けられるというものです。これにより団員確保とあわせて地元商店街の活性化も期待できるということでした。また、協力店にはPRキャラクターの「日光仮面」を用いた表示証を掲示するなどユニークな発想や、協力店舗の一覧表をカードサイズにまとめた「日光市消防団サポート事業協力店ガイド」を作成し事業の周知を図るなど随所に工夫が見られました。市全体で人口減少が進む中、団員減少に対する効果がないのが現状としながらも、団員からのアンケートの実施や募集活動など、根気強く団員確保のため取り組んでいました。

観光経済常任委員会

《三重県鳥羽市》

第二次鳥羽市観光基本計画について

第一次計画のほぼすべてのプログラムを達成したが数値目標がなかったことから、新たに海との独自の関係性を磨きあげた「鳥羽うみ文化」の継承と創造を通し、より一層の魅力向上を図る指針を示したのが第二次計画でした。今回は三つの基本戦略を中心に説明を受けました。

- ① 滞在をより魅力的なものにする
バリアフリー改修工事に対する補助とバリアフリーに対応した観光パンフレットや観光客向けの防災マップを作成していただきました。また、温泉地としての魅力を高め地域の食資源の掘り起こしと磨き上げにも力を入れていました。
- ② 美しい景観を提供する
中心商店街の空き家対策の好事例や離島を活用した旅プラン作成を行っていました。
- ③ 外国人観光客に魅力を伝える

訪日最初の場所にはななくても二、三回目には来てもらいたいと考え、多言語表記等受入の環境整備をしていました。観光推進組織に農協や市民団体等も加え、その取り組みを行政がサポートして行っていました。

《静岡県熱海市》

「営業する市役所」について

熱海市は昭和四十年をピークに人口が減少し続け、高齢化率は県内一位、出生率は県内最下位でした。また、宿泊客数も昭和四十四年をピークに減少して行きました。こうした中、魅力向上や地域経済活性化を実現するための一環として「営業する市役所」と称し、三つの視点で事業を展開して行きました。① 公共施設及び市遊休資産の活用促進のため民間活用を公募し、電気自動車充電スタンドや熱海の名産品等がある交流拠点になるローソンが誕生しました。② 企業とのパートナーシップ協定を結び首都圏での情報発信等を行う。③

市と商工会議所が連携し「売上増加に向けて事業者と一緒に考え、コストをかけずに知恵を出す。そして結果を出す」にこだわったチャレンジ応援センターの開設。

本来、行政は公平性や規則にとられるが、民間企業との協力やまちへ出て市民と話す機会が増えることで、市職員も意識が変わり売り上げが増加し、市民のやる気も出てくるということでした。こうした意識改革で様々な可能性からアイデアが生まれ、一つの成功事例から好循環を創出している活性化につながっていました。



鳥羽市役所にて